

## ARASHHIMA 財団 設立趣意書

近年、日本では医療保険・介護保険財政がひっ迫しており、財政の立て直しが課題となっている。

高額薬剤を含む高度先進医療や少子高齢化もその一因となり、医療保険制度・介護保険制度は、安定的かつ継続的な財政基盤の確立が急務とされる。

一方、医療の現場においても血液不足が問題となっており、献血を呼びかけても必要量が確保できない事態が続いている。

また、患者や利用者、被保険者が、新規に病院にかかる際、常に病状の説明をしなければならず、3時間待ち3分診療ともいわれ、未だ改善策が打ち出されていない状況である。

医療機関や介護施設は公益事業と位置づけられているものの、医療・福祉経営においては、診療報酬、介護報酬請求制度を介した保険者（国）とのやりとりで終始し、地域医療連携を深化させた診療記録及び介護記録等の情報共有は進んでいない。また、保険者（国・健康保険組合・国保組合・地方自治体）からも被保険者に対し、情報提供は殆ど行われていない状況である。

これは、医療・介護保険制度、全体から見ても非効率で早急に取り組むべき課題である。

そこで、財団設立準備室は、こうした状況を複合的に改善させるべく ARASHHIMA 財団を設立する。

当財団ではブロックチェーン技術を使った暗号通貨 **BLOOD** を発行し、保険料・保険給付、診療報酬・診療記録、献血・輸血等の情報を一元管理する。

これにより、患者及び利用者は電子カルテを持ち運びできるようになり、医療機関及び福祉施設は、報酬点数計算等において人材不足や間接コストの削減・解消が可能となる。

また、暗号通貨 **BLOOD** が発行されることで、国及び医療機関・介護施設は、ダイレクトな報酬精算が可能となり、患者や利用者にとっては、病院や医師、介護施設とスムーズな連絡が取れるようになる。

当財団は利用者主義の下、中立的立場で、医療機関及び介護施設、並びに利用者・患者が安心して活用できる国際的な流通（医療ネットワーク）システムを提供し、医療保険・介護保険財政の健全化、並びに日常生活の安定及び公益福祉の増進に寄与することを目的とする。

ARASHHIMA 財団設立準備室

*T. Arashima*